

都中P通信

No. 17

発行 平成24年1月 東京都公立中学校PTA協議会 会長 水上 幸夫

新たな年の初めを迎えて、皆様方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年は3月11日に千年に一度とも言われる「東日本大震災」が発生し、甚大な被害を及ぼし多くの尊い命が失われました。改めて、お亡くなりになられた方々に、哀悼の意を表しますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「絆」の文字に代表されるように、人と人の繋がりや、助け合いの心の尊さを改めて実感する一年でもありました。さて、平成23年も終わり、新しい年となりました。中学3年生のお子様をお持ちの保護者の皆様におかれましては、何かと気ぜわしい時期ではないかとご推察いたします。

また、地区P連におかれましても、各単位 PTA においても、役員改選等でお忙しい日々を送られていることでしょう。

都中Pにおきましては、総会に続き、都庁展望室で開催された『都中Pフェア』や、災害を通して地域の繋がりを考えた『都中Pフォーラム』等が実施され、皆様方のご協力とご参加をいただきまして、盛会のうちに終わることができましたことをお礼申し上げます。

また、主体的な学びとしての「PTAアカデミー」へもぜひご参加ください。21世紀に生きる子どもたちのために、公教育の発展とより良い教育環境の整備を目指して、皆様とともに手を取り合っていきたいと切望しております。

本年度の都中Pの活動は6月の総会までとなっております。昨年同様、一層のご協力とご理解を賜りたく、ここにご挨拶とともにお願い申し上げます。

平成24年1月吉日
東京都公立中学校PTA協議会
会長 水上 幸夫

*** 東京都中学校PTAリーダー研修会 ***

「都中Pフォーラム」

日時:平成23年12月10日(土)

場所:多摩市立永山公民館5階 ベルブホール

テーマ:地域のつながり ~災害時にあなたは?~

協力:多摩市教育委員会、多摩市立中学校PTA連合会



昨年3月の東日本大震災の発生は、子ども達が学校で生活している時間帯でした。地震に対して、子ども達は日頃の訓練どおりに対応できたと思いますが、私達はどうだったでしょうか。このような災害時にPTAとして、まず何をしていくのか。地域の住民である私達に、避難所である学校に、どのような協力ができるのでしょうか。行政で危機管理を担当されている方を講師に迎え、東日本大震災についての説明や

災害に対する行政の取り組みについて紹介していただきました。

<教育と訓練>

- ・ ものごとを変えるのは人しかない!
 - ・ 人を変えるのは教育しかない!
- ⇒ 防災、BCP(事業継続計画)も結局は、教育が一番効果が高い。
⇒ 知識だけでは足りない。知識を行動力に変えるのは訓練!



ワークショップでは、過去の地震災害や非難の状況を知り、現場の問題を理解し、解決する方向性について皆さんで意見交換し、班ごとの発表では違った意見も知ることができました。

釜石で伝えた【避難の3原則】

1. 想定にとらわれるな
「ハザードマップを信じるな！」
浸水想定区域はあくまで“想定外力”に基づくものであって、それ以上の災害が起こる可能性があると思え
【浸水想定区域外であったにもかかわらず、避難対策をしっかりとっていた】
2. 最善を尽くせ
「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ
【予め決めておいた避難所よりも、さらに高台へ避難した】
3. 率先避難者たれ
いざというときには、まず自分が避難すること
その姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる
【避難する中学生を見て、小学生は校外へ避難した】



〔 東京都公立幼小中高PTA教育懇談会 〕

2012年1月18日、東京都公立幼小中高PTA連絡協議会主催「教育懇談会」が開催されました。公立の幼稚園から高校まで、東京都としての団体をそれぞれ組織し、連絡協議会を構成しています。例年行われる教育懇談会では東京都教育庁の各部を交えてPTAからの意見発表とともに意見交換をしていますが、以下に今年度の都中Pの発言要旨をまとめましたのでお知らせします。

- ◎ 平成22年度「公立学校教職員の人事行政の状況調査」が11月に文部科学省から発表され、新任教員として採用されても、教育委員会が「指導力不足」と認定した教員が208名と報じられました。一般企業であれば新卒採用後は長い研修期間が設けられますが、教職となるとその日からベテラン教員と同じ立場となります。保護者としては子どもたちへの影響も考え、不安は尽きません。また、教員採用試験の受験を広く呼びかけていらっしゃるが、どのような理由があるのでしょうか。前述の「指導力不足」の解消も含めて、より良い教育環境で子どもたちが過ごすことができるように願っています。
- ◎ 副校長からの希望降任が増えていると聞いております。学校の要となる副校長の多忙感解消のために、生活指導・教科指導などの教務指導業務を担う副校長と、地域との関わりや経営企画・教育事務などの業務を担当する副校長と、副校長を2人配置する地域(学校)がありますが、このような取り組みを更に推進していく必要があると思います。またモデル校における校務改善も含め、副校長の多忙感軽減のために東京都がおこなっている施策全般における効果はいかがでしょうか。
- ◎ ほとんどの生徒が高校進学をしている現在、義務教育である中学校までの意識を引きずったままの生徒も保護者も多いと感じています。それが生徒たちの高校生活に影を落とすことになるのであれば、保護者全体の問題として考えていかなければいけないことでしょう。高校へ進学した生徒のコミュニケーション能力の不足が学級運営に支障をきたしているとの話も聞き及んでいます。高校は広範囲から生徒が集まり、小中と同じような連携は無理ですが、高校と中学校の先生方の情報交換や懇談会の機会を増やすことは必要であると思います。生徒指導に対する高校の立場からの中学校保護者へのアドバイスもあるかと存じます。その情報やご意見をいただくことで、子どもたちのより良い高校生活への道標としたいと思います。
- ◎ 都では、23年10月に高校の「保健」の補助教材として「災害の発生と安全・健康」を作成し、東日本大震災を取り上げています。今回の大震災は、私達が目を背けず、語り継がなければならないものと考えます。その被災地への支援として、宮城県の小中学校に派遣されている教員がいらっしゃる事は承知しており、今後も継続する必要があると感じています。実際に被災地域での職務を通して様々なことを経験された先生方は、帰ってこられてから防災教育においてのみならず、「命の大切さ」を子ども達に伝え、本当の「生きる力」を実践してくださると期待しています。なお、支援教員として出向していった学校では、その期間どのように対応しているのか心配な面もあります。

セイフティプラン24 【中途加入できます】

都中Pが厚生事業として運用している会員向け団体保険。個人会員で加入。犯罪被害にも対応しており、東京都の「犯罪被害者等支援を進める会議」においても、他保険ではあまりない被害事故補償(交通事故含む)を打ち出した保険として高い評価を得ている。加入、問い合わせは都中Pまで。E-mail: jpta@Tokyo-Jpta.org